



新年会の挨拶で全快を報告する川越理事長

医療法人パリアン理事長 川越 厚

2002

WHO

"

QOL

"

2

39



"

"

"

"

1月19日、ボランティアの集いで話し合う



川越博美看護部長

今年度最後の第4回ボランティアの集いが1月19日(土)10時30分から、15名が出席してパリアン4階で行われた。

まず、出席者全員が、今までの活動報告及び今年の抱負を語った。

続いて、今日のメインテーマである「スピリチュアル・ケアについて」の議題に入った。

題材は、患者さんの心の痛みを感じとることができる看護師さんが書かれた本の中より「死ぬのなら天国に行きたい」の部分の朗読を聞いて、「スピリチュアル・ケア」をどうとらえているか、ボランティアとしてどう関わることができるかを話し合った。

【「死ぬのなら天国に行きたい」の概要】

病状が悪化し、死の近いことを悟った女性の患者さんが「死ななければならぬのなら、天国へ行きたい」とおっしゃっていたが、「今のままでは天国にも行けない。どうすればいいの?」と胸の内を明かされた。筆者は“祈ること”を提案したが、今の自分は祈ることもできないと言われた。「ご主人に祈ってもらっては?」と言ったとき、彼女の顔がパッと輝き、「そうだ!お世話になった牧師さんに祈ってもらおう。明日からすることができて嬉しい」と言われ、明日からすることが見つかったことを大層喜んでおられたという。下記は原文の数行をそのまま掲載させていただいた。

『恐れていたのは死そのものではない。死の近いことを悟り、明日からどうやって、なにを目標に生きていけばよいかを見出せない状態が苦しみだったのではないだろうか。明日、なすべきことがあること、それが、生きる力につながることを教えられたように思う。何もないことが絶望なのだ。「明日からすること」、それは、まさに死に行くための準備をすることだったのではないだろうか。この時から亡くなるまでの、ちょうど二週間、彼女は、ご家族の中でそれをなし終えたのである。』(※)《川越 厚編「やすらかな死～癌との闘い・在宅の記録～(日本基督教団出版局 1994年)」から「訪問看護婦の報告」より「死ぬのなら天国に行きたい」

朗読を聞いた後のボランティアの話合い模様

- スピリチュアル・ケアがボランティアの役割の1つではないか。デイホスピスでも訪問でもメモルの集いでも、患者さんや家族とのかかわりの中で、多分スピリチュアル・ケアが行われているのではないか。
- 「先に希望を持って待つ」ということは、本人を生き生きさせられる。「来週きてくれるかい?」「来ますよ」と言ったら「待ってるよ」。そのしぐさにボランティアの訪問がある意味生きる力になっていると感じる。

(3ページへ)

<2ページから>



- 自分が先に逝くと思っていたら奥様が先に逝かれたショックで、食べ物に箸もつけられなかった人がデイホスピスに通うようになって、ボランティアとお話する楽しさからか日増しに元気を取り戻していらした。デイホスピスでその人にお会いすることが楽しみになっている。
- “死を見つめながら、希望を持って生きる”の希望が牧師さんに祈ってもらうことだった。これにより死の準備ができたと彼女は考えたのかもしれない。看護師さんは患者さんの苦しみを感じとり、その解決の糸口になる働きかけをしていた。
- 死を前にして「祈ることばが見つからない」そんなにも絶望が深いものなんだと、つらい気持ちになった。この看護師さんは素晴らしい方だなあと思う。私だったら、次の言葉を発せられないし、一緒に泣いてしまうだろう。なすべきことがあるということが生きていく力になる。死というゴールが見えていても希望を持って生きることのすごさを感じた。
- ボランティアは技術や知識はなくても、人が死んでいく中での思いを感じ取り一緒に希望を探ることができる。その希望が命を長らえる希望ではないけれど、何かを患者さんと一緒に探ることができるのが、ボランティアではないかと思う。歩んできた過去の話の聞いたりすると、患者さんは楽しそうに話される。自分の歩んできた人生を分かってもらえるだけでも自分の価値を見出されるから、是非ボランティアはそういう関わりをしていきたい。
- 訪問に行くと、「もうじき死ぬのではないか」「どうして私はがんなのか」とか言われて、なんにも言えない自分が悩みだったが、先生たちに何も言えなくてもいいと言われて、すごくホッとして、逆に「つらいですね」「心配なことがありますか」などの質問をしてくれませんかと言われて、今でもうまく答えられない。
- うまく答えられないことが、ケアしていることなのかもしれない。つらい気持ちを聞いてあげるだけでいい。“つらい”と感じていることを“つらい”と思ってくれているだけでいい。ボランティアとして関わっていく永遠のテーマが“スピリチュアル・ケア”であり、今後も話し合いを続けていくことで締めくくった。

その後、ボランティアの有富さん、野本さん、神馬さんが出演したラジオ日経の「がんからの出発～いのちみつめて～」を聞いて、ボランティアの集いを終了した。

今月のカンファレンスの予定

●公開定例カンファレンス

開催日：2月20日(水)18時30分

テーマ：「独り暮らし末期がん患者の暮らしを支える～定期巡回・随時対応型訪問介護と看護との連携～」

●デス・カンファレンス

開催日：2月22日(金)17時00分

●事例検討会

開催日：2月15日(金)17時00分



亡くなって1年目の遺族とパリアンスタッフ・ボランティア共に故人を偲ぶ会「第3回メモルの集い」が1月12日、4名の女性ご遺族のご参加いただき開催された。今回はボランティアの辻川さんが進行役、川越厚先生、看護師の桜井さん、佐藤(博)さん、ボランティアの野本さん、前山さんが参加された。

ご遺族の話で印象的だったのは、病院の医師の中にはまだまだ在宅医療の知識が薄いこと、在宅に移行するための手続きが大変と言われご本人やご家族は在宅を半ば諦めていたということ。本人の希望があれば在宅移行は難しくないことを、広める必要があると痛感した。(江口)

夫婦の愛情に感動しました

家族構成や年齢は様々ですが、妻として夫を看取った境遇はみなさん同じです。ご主人の死を受け入れつつあり、自分の時間を楽しむことを始められた方、なかなか現実を受け止められずに、必死に前に進もうと頑張っておられる方、同じ頃にご主人を亡くされても、やはり人それぞれです。進む歩幅は違っても、大切な人を亡くした悲しみ、寂しさを同じく体験したものの同士の話は、各人の心に残り、新たな気づきがあったのではないかと思います。

《参加されたボランティア前山さんの感想》

故人との関係、ご自身の想いを素直にお話しただき、有難かったです。私達も考えさせられるものがあります。そして、ご夫婦の愛情に感動しました。みなさん素敵なお夫婦で、うらやましかったです！

お帰りの際に、参加して良かったとおっしゃってくださいましたが、同じ言葉を私もお返ししたいです。参加できたことに感謝します。

ありがとうございました。

90

先生

お元気でいらっしゃいますか。

先日、渡辺看護師さんが病院までいらして下さいまして「急に入院になって、とてもびっくりしましたよ」とおしゃって下さって、私もあまり急に入院となってびっくりし、どたばたと忙しい思いをいたしました。

家にいるときは、訪問していつもほがらかに私を励まして下さいまして、私もお蔭様で「うつ」から抜け出そうとしておりました時でしたので、とてもがっかりしております。

これから短い命ではありますが、このままで何とか元気に生活出来るかなと思っておりましたのに……。

一言のお礼も申し上げずお別れするなんて本

当につらい申し訳ないことと思います。

もう先生のほがらかなお顔、面白いお話を聞く事もなくなってしまいました。先生だってつらい事もおありでしょうに、私の所でも楽しく優しいお気持ちで接していただき、この様な先生にお目にかかったのははじめてでございます。

もう九十才、これ以上欲張ったらバチが当たります。でももうすこし頑張れるだけがんばっていきましょう。

先生もどうぞ、おからだ大切に、私の様な方々をなぐさめて下さいます様、又何処かでお目にかかれれば嬉しく思っております。

乱筆乱文お許し下さいませ

訪問ボランティア

あんなことこんなこと



A夫さんにご家族とのお話で、一番盛り上がったのが“もんじゃ”の話。

すごく気軽に家で作るという。「あんなの簡単だよ～」とみんなで言う。「OとOを入れてチャッチャッチャッと…。」

どこの店がおいしいかも教えてもらった。

作り方をしっかり教えてもらったが、まだ一度も作ってない。ごめんなさい。

また、デイホスピスで出されたメニューが焼きそばだった時、“みんなで食べた焼きそば、おいしかったですね”と言うと、江戸っ子のA夫さん“焼きそばに玉ねぎはいらない”と。なかなかこだわりがあるようで…。

食べ物の話が出る時は、いつも明るい雰囲気になった。

K♡N



“もんじゃ”はヘラを使って食べる

昨年10月からクリニック川越の副院長に就任した中島先生と今年1月から介護支援専門員として勤務された小磯さんの歓迎会、昨年11月に骨折したパリアン理事長の川越厚先生の全快祝いを兼ねたパリアン新年会が1月25日(金)午後6時から、墨田区亀沢のイタリアンレストランで医師、看護師、事務のスタッフ及びボランティアリーダー等、約30名が集まって行われた。新年会は、事務の大館さんと梅本さんの司会で進行し、曾根原先生の音頭で乾杯した。

最初に、川越先生の全快祝いが行われ、先生からは骨折の闘病体験談(1ページ関連)や年頭にあって、NHPCOの会員として、日本のホスピスの代表として恥ずかしくない質の高いケアを提供していく決意を述べられた。続いて中島先生と小磯さんの就任挨拶があり、パリアンでの抱負を述べられた。

空くじなしのビンゴゲームのあと、看護師の渡邊さんとヘルパーの早川さんによる「あたりまえ体操 パリアンバージョン」が披露され、その熱演に店内の一般のお客さんからも大きな拍手が起こった。



「あたりまえ体操 パリアンバージョン」を熱演する渡邊さん(左)と早川さん



和気あいあいのうちにフィナーレとなり、最後は恒例の「ユーアー・マイ・サンシャイン」を横田看護師の指揮で全員の大合唱でお開きとなった。(江口)

←「ユー・アー・マイ・サンシャイン」を合唱する出席者



パリアン公開定例カンファレンス、2月20日に再開！
テーマ「独り暮らし末期がん患者の暮らしを支える」

デス・カンファレンス、事例検討会も開催中

今月の開催日

デスカンファレンス：2月22日（金）17時～18時

事例検討会：2月15日（金）17時～18時

第4回メモルの集い、3月2日開催します



2			10		4
8			2	30	
	2	1	8	15	22
	2	28			10
	2	26	()	1	
	2	16		1	



東京駅ドームの天井



1

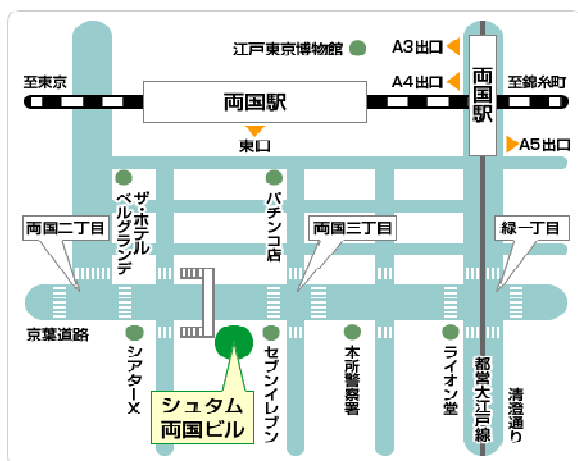


1

パリアン 公開定例 カンファレンス

日 時:2013年2月20日(水)18:30~20:30

場 所:墨田区両国 3-19-5 シュタム両国ビル 4階
パリアン カンファレンスルーム



参加ご希望の方は、お名前と
ご所属をFAXまたはメールで
下記へお送りください。

■パリアン カンファレンス担当

FAX: 03-5669-8310

Mail: conf@pallium.co.jp

お問合せ TEL: 03-5669-8302

